

CONTENTS COMBAT

2012.Spt.
No.438

9

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
©さいとう・たかを／さいとう・プロダクション／リイド社
©WORLD PHOTO PRESS 2012



【第1特集／ゴルゴ13特集】

014 特集

ゴルゴ13とM16

予告なし、前代未聞の特別企画がついに完成。
もはや説明不要の「男」と「銃」。その目で目撃せよ！

016 **SCOOP !**
完全初公開 ウェスタン アームズのゴルゴ13モデル
「M16 G13 A3スーパーバージョン」

018 **スペシャルインタビュー**
さいとう・たかを×国本圭一「ゴルゴ13とM16を語る」

022 **M16再考**
この銃はなぜ日本でここまで支持されるのか

024 **ゴルゴ13とM16**
名場面から探る男と銃の関係

028 **戦場のM16**
傑作兵器の知られざるストーリー&実銃メンテナンス

032 **世界最速レポート**
WESTERN ARMS
M16「GOLGO13MODEL」

038 **ゴルゴ13SPコミックス年表**
ゴルゴ13を読めば世界が見える、は本当だ。

040 **SILENT SNIPER**

042 **来年はゴルゴイヤー！**
カウントダウンをはじめたゴルゴイヤーとハリウッド

004 **New Generation styler**
●fujiwara

044 **にっぽんのちからこぶ**
NBC偵察車@大宮駐屯地
●取材／菊池雅之

048 **GOODS & ACCESSORY**

054 **ヨーロッパ最大級の軍事見本市**
EURO SATORY 2012 Part.1
●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)



060 **TOKYO MARUI**
GAS BLOW BACK M9A1

●Photos&Text by Taku

066 **CRAFT APPLE WORKS**
COLT M1860 ARMY 7.5inch

●Text by Toshiyuki Kikuzuki ●Photos by Taku

071 **WESTERN ARMS**
SCREEN PROPERTY SERIES

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

078 **COMBAT Recommend Movie**



●解説：狩野健一郎

080 **トイガンニュース**

080 WA ベレッタM92FS 〈ダイハード・タイプ／黒染〉

081 WA M92FSフルオート 〈アンダーワールド〉

082 WA ベレッタM92FS 〈まどか☆マギカ〉モデル

083 WA ベレッタM1934 〈ノワール／サイレンサー・バージョン〉

084 東京マルイ 電動ガンBOY's HG SCAR-L CQC

085 **Militaria Roundup!**

ドイツ陸軍下士官兵用野戦服 1940～43

●解説：菊月俊之

098 **サープラスいじり技術研究所**

●写真・文：織本知之

130 **The Equipments of the U.S. Force**

〔現用米軍装備カタログ〕第93回

イーグル・インダストリー Rhodesian Recon Ves

●解説：松原隆 (高知ボンバース) ●撮影：山崎学

138 **世界の兵士図鑑**

ドイツ連邦共和国陸軍

●イラスト・解説：坂本 明

142 **PRESENT**

184 **S&Grafグッズ**

186 **中田商店グッズ**

097 **GAME OVER THE TOP!**

100 **物欲ワンホール**

Round 11：実戦的ハンドガンカスタム “The Cup Gun”

104 **レア・ミリタリー・テクノロジー**

108 **ミリタリー雑学講座**

112 **ミリタリー・コレクション**

114 **幻妖中隊 #mod.13** ●by FUJIWARA

116 **ザ・ビクトリーショー**

117 **こちら神保町軍装店**

118 **A STITCH IN TIME**

119 **MGストーリー ～小峯隆生のできるまで～**

122 **蛙のゆびさき (中山 蛙)**

124 **トイガンズジャンクション**

161 **バックナンバーリスト**

162 **読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ**

164 **帰ってきた 狩野健一郎の [監督、そこにおっぱいは必要ですか!]**

166 **アメリカGUN事情 Guns Talk from US**

167 **New Shop Information “大雄ホビーショップ”**

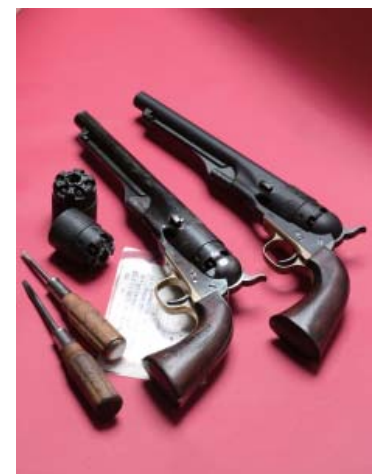
170 **狩野健一郎のシネマ放浪記**

171 **狩野健一郎の新作DVD紹介**

172 **コンバットマガジン・インフォメーション・センター**

175 **読者プレゼント応募方法**

176 **編集後記**





ゴルゴ



M



&

M16A1をベースにした狙撃用カスタム・ライフルを携え、国境を越えて暗躍するスーパー・スナイパー、デューク東郷、コードネーム“ゴルゴ13”。鋼鉄の意志と鍛え抜かれた肉体、詳細な情報収集と周到な計画で100%目的を達成する男。時代を超えた理想の人間像を「狙撃者」という特異な存在に置き換えて、成功の歴史を重ねてきた孤高の戦士は、正確でリアルな銃器描写とともに、決してファンの期待を裏切らない。劇画の世界を確立したさいとう・たかを氏によって描かれたダーク・ヒーロー“ゴルゴ13”は、連載開始から44年を経て、日本の国民的作品となり、その歴史を世界へと広げている。今月は、最高の演出と優れた精度で完成されたウエスタン アームズの“M16ゴルゴ13モデル”の発売を記念して、ゴルゴ13とM16系アサルト・ライフルの魅力に迫る緊急大特集。

Photo/SHOTGUN MARCY Kunihisa Kobayashi SLEEPINGHAWK Yasuji Yushina (WPP)
Text/SHOTGUN MARCY SLEEPINGHAWK Toshiyuki Kikuzuki Atsushi Innami
©さいとう・たかを/さいとう・プロダクション/リイド社

ヨーロッパ最大級の軍事見本市 EURO SATORY 2012 Part 1



1 個分隊の兵士たちは、ルノー・トラック・ディフェンス社のVAB Mk.3で移動。VAB Mk.3は仏陸軍で多用されているVABをベースに開発された最新型の装甲車で、戦闘重量は13tから最大20t。エンジンは自社製の400馬力ディーゼルエンジンを搭載している。装甲は最大でレベルIV。さらに高い対地雷・IED生存性を有している。最大速度は105km/hで、水陸両用である。登場したAPC型はルーフにFN社製の12.7mm M3機銃を搭載したRWSを採用している。



デモ会場の向かって右側では、アフガンの村落をイメージした状況で行なわれた。



GINTセルビス社の監視システム、ピジタワー。移動式の警戒・監視システムで、センサーマストには電子・光学センサーに加えて、警告を発するためのスピーカーも装備されている。



ガスマスクを装着して警戒体制をとる兵士たち。

NBCR環境を想定した状況では、ネクセター傘下のNBCシス社の軽量NBCR車輛「ミーアキャット」が登場。都市部における化学・生物物質のサンプル採取・探知および洗浄が可能で、GPSを装備しており汚染地域を正確に特定し司令部に通報する。要員が着用しているのはCBRNコンバットスーツと完全に外部から隔離された与圧式防護服CDL500だ。ともにポール・ボアイエ社の製品。

会場向かって左側では都市部を模したセットが組まれ、装甲車の支援を受けた機動隊が暴徒を鎮圧するデモが行なわれた。



世界最大の陸戦兵器の見本市は、隔年のペースフランスで開催されるユーロサトリだ。そのユーロサトリが今年もパリ郊外のバリ・ノール・ヴィルパント展示場で6月11～15日の5日間にわたって行なわれた（ちなみにこの会場は欧州最大のおたくイベント「ジャパンエキスポ」でも使用されている）。

今回は世界53ヵ国から1,433の出展があり、5万3千人を超える来場者があった。また世界84ヵ国から155の軍や政府機関の代表団が訪れた。日本からも陸幕から1名、統幕から2名が参加した。

ショーの初日前日には恒例のプレス向けの機動デモンストレーションが行なわれた。今年はアフガンの農村部とフランスの都市部を模したセットが作られ、実戦的シナリオに沿った形で製品の紹介が行なわれた。今回はこのデモの様子と小火器や個人装備を中心としたリポートを本稿で、そのほかの装備や島嶼防衛関連装備などを筆者の連載記事「レアミタリー・テクノロジー」にて、パート2として紹介する。また次号では大型の装甲車輛を中心としたリポートを後編としてお届けする予定だ。



仏陸軍のモジュラー・アサルト・ブリッジ。橋部は1セクション展開時は14.3m、2セクション展開時は26mとなる。幅は4m。MLC（Military Load Classification：軍事荷重等級）80Tに対応している。1セクションの場合はMLC120Tに対応。



キャブの中央に、架橋の際に車体を固定するアウトリガーを装備している。車体は10輪で760馬力のディーゼルエンジンを搭載。航続距離は800km。キャブは装甲化されており、地雷・IEDに強い耐性を有している。

デモに参加した仏軍海兵隊分隊のメンバーたち。



人民解放軍の代表団は相変わらず大人数だが、中国企業はノリンコ社以外目立った展示はなかった。ちなみに防衛省からは統幕から2名、陸幕から1名が派遣されたが、統幕の2名は2日間だけの滞在だった。ショーの大きさと費用対効果を考えれば会期中を通して参加すべきだったろう。



海兵分隊のライフルマン。FA-MASには光学照準器が搭載されている。



現在仏陸軍で配備が進んでいるフェラン先進歩兵用のバックパック。キャメルバッグの特注品だが、内蔵されているハイドレーションはソース・バガボンド社のものが採用され、「異域同舟」となっている。

TOKYO MARUI GAS BLOW BACK M9A1

東京マルイ: <http://www.tokyo-marui.co.jp>
Photos & Text by Taku



海兵隊仕様のM9A1登場!!
傑作の遺伝子を受け継いだ
新たな傑作の誕生



M9A1
●全長: 216mm
●重量: 961g
●装弾数: 26+1発
●価格: 価格未定

独特なフォルムを持つベレッタ社のオートマチックハンドガン、M92Fシリーズは映画やTVドラマなどで登場する機会も多い。民間モデルのM92Fをはじめ、アメリカ軍制式採用モデルのM9、M92Eliteや90-Twoといった数多くのバリエーションが展開される人気モデルである。直線と曲線が複雑に組み合わさって作り上げられたそのフォルムは、コルトやS&Wにはない、ヨーロッパ的な美しさというか気品が漂っている。日本のマニアの間でもガバメントやグロックと並び親しまれているモデルだ。

バリエーションのひとつである『M9A1』は、米海兵隊の要請を受けて開発されたモデルだ。基本的なフォルムはM92Fと大きく変わらないが、細かいところに改良点が見受けられる。各部に盛り込まれたアイデアは、実戦を想定してのものであり、使い込むほどに満足させてくれる説得力を持つ。米軍制式採用モデルである「M9」との一番の違いは、フレーム下部に設けられたアタッチメント装着用のレイルマウントだ。ピカティニー規格のレイルマウントを装備することで、さまざまなウェポンアタッチメントの装着が可能となった。これ以外には、グリップ

をよりしっかりと握り込むためのハイグリップ加工や、フロントとバックストラップのチェッカーリング処理など、より実戦向けの処理が施されているのが特長である。東京マルイでは、これまでにガスブローバック、エアコッキング、電動ブローバックでM92Fシリーズをモデルアップしており、シルバーモデルやサムライエッジなどのバリエーションを除けば、今回の『M9A1』で新作は4作目となる。昨年10月に幕張で開催された「プラモデルラジコンショー」において、電動ブローバックハンドガンの最新モデルとして『M9A1』は発表されていた。5月に開催された「静岡ホビーショー」でも、当然ながら電動ブローバックモデルの具体的な発売時期が告知されるものと思っていたのだが、よい意味で期待は裏切られた。まさかガスブローバックガンの新作モデルとして『M9A1』が発表されるとは思っていなかった。しかも、従来のバリエーションではなく新作モデルとしての登場である。いつものことながら、東京マルイのサプライズには驚かされる。ところで、こういった仕事をしていると、普通の人よりも情報が早く入ってくるよう

に思っている人がいるようだが、意外とそうでもない（マルイの島村さんは口が堅いのだ）。誌面の関係で多少は早く入ってくることもあるが、ほとんどは読者と変わらないタイミングである。ただ発売時期よりも早く新製品を手にする機会が多い。それは役得といえなくもないが、外に持ち出して自慢できるわけではないので微妙なところ。さて話を戻そう。そのようなワケで、我々取材班も静岡ホビーショーへ行き、ガスブローバックシリーズの最新モデルが『M9A1』であることを知ったのである。前作の「M92Fミリタリー」は、トイガンとしての機能性や価格を重視したため、ダブルアクションオートの重要な要素のひとつであるデコッキングメカがオミットされていた。そのため見た目はM92Fなのにコック&ロックが可能という、マニア的には少々チグハグなメカニズムを持ったモデルであった。実用性の点においては文句のつけようがないモデルだったが、マニアからすると少々、というかなんかなり物足りない1挺だった。だがその点、今回の『M9A1』では、細部にまでこだわって造り込まれてい

01 RRV (Rhodesian Recon Vest) の使用方法

特殊部隊向けのモジュラー・マリタイム・デザインとあって、単なるチェストリグからプレートキャリアや浮力ベストなど豊富なアクセサリーが開発されている。2003年 NAVY SEALs や空軍特殊部隊に支給された MLCS キットに入っていた黒ファステックス仕様の RRV で説明しよう。MLCS キットには RLCS キットと同じく軍との契約でメーカータグが付いていないのが特徴だ。



MLCSキットに入っているPACA社コンシーラブル・ソフト防弾ベストの組み合わせでRRVを着ている。現在まで生産されているRRVの基本デザインとなる。



付属の補助ハーネスを使ってH型ハーネスに変更も可能。背面にMLCSハイドレーションバックを背負う時に便利だ。

フロントのアップパーパネルを折り畳んでチェストリグとして使用も可能。



RRV最大の特徴はチェストリグスタイルでフロント防弾パネルを携帯可能なことだ。最大XLサイズまでのセラミック防弾パネルが携帯できる。写真はスリーマーカーモデルの防弾パネルを挿入しているところ。



SAPI/SPEAR防弾パネル

浮力プレイダー
これまでSOMAV等にも存在していたプレイダーがRRVにも存在する。エアは専用チューブに口で吹き入れる仕組みだ。



RRVのカンガルーポケット部分に本体プレイダーを仕込み、専用チューブはRRVハーネス部分に固定する。使わない場合はすべてポケット内部に収納することができる。



The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】 第94回 イーグル・インダストリー Rhodesian Recon Vest

●解説：松原隆（高知ボンバース） ●撮影：山崎学 ●協力：Bonz Or Albert Au-Yeung
●協力ショップ：LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>) / Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>) / 特小工房 (<http://m80fmj.web.fc2.com/>)

イーグル・インダストリー社 RRV (Rhodesian Recon Vest)

1990年代後期から特殊部隊にサファリランド社を中心とした弾薬&防弾携帯装備“SPEAR”シリーズの支給が開始された。2000年初期には次期特殊部隊納入装備としてイーグル・インダストリー社とアリイド社が開発したMLCS (Maritime Load Carriage System) が現在まで支給されている。RRVはそのMLCS専用携帯ポーチを装着可能としたMOLLE対応ベストのひとつである。

ベストといえ基本はチェストリグがベースとなっており、それ単体で戦闘も可能だが、オプションの防弾背面パネルを追加すると防弾プレートキャリアベストへと変身する。たなみに2004年の本誌「ネイテック研究所取材」では初期モデルRRVをはじめとしたMLCS装備が紹介されている。当時、研究所ではイラク戦争にMLCS装備で参加した特殊部隊隊員たちのデータを基に細かな補正が製品に施されており、RRVを時代別・部隊別にピックアップしてみると微妙に違っているのが分かる。こうした現場の声を反映するメーカーだけに短期で終わったSPEARシリーズとは違う

ロングランな支給が続けられたのだろう。SEALSチーム6、通称“DEVGRU”チームに限定供給された少数のDG LCS、SEALSや空軍等の幅広い特殊部隊に支給されたMLCS、RANGERに支給されたRLCS (Rはレンジャーの意味)、海兵隊フォースリーコンに支給されたFSBE2、2006年からは特殊部隊全般を中心としたSFLCS (SFはスペシャルフォースの意味) となり現在に至っている。迷彩色やファステックスの色変更や専用ポーチの追加など支給された年代や支給された部隊や特別オーダー等によって中身が微妙に違っている。

今回紹介するRRVは兵士の要望や部隊専用注文などでデザインの違うものを筆者が見つけて紹介しているが、まだまだ探せば色々なバリエーションが存在していると思われる。RRVの元デザインは恐らくRANGERなどに支給されていたRACKチェストリグ (SP社) と思われる。2002年に入りイーグル・インダストリー社も同デザインのチェストリグをショットショーで発表している。



通常のリアパネルMOLLEループは横に4列（最大部分5列）だが、下の1段部分を裏側に折り込み、専用ドットボタンで固定させると3列（最大部分4列）のコンパクト・チェストリグになる。



RRVに付属するアダプターハーネス類。左から初期（金属製のテープ留付き）、現行のハーネス、MOLLEループ付きハーネス、右側ふたつはH型ハーネスアダプター。



初期のH型ハーネスアダプターはタン色でコヨーテ迷彩（右端）は現行。



2004年RLCSキットでも支給されていたMOLLEループ付きアダプターハーネス。